

オープンキャンパス 2018 の実施概要

■現代システム科学域【環境システム学類】

<学域・学類説明およびシンポジウム>

開催日程	8月4日（土） 午前の部 10：00～11：30 （受付・入室 9：30～） 午後の部 12：30～14：00 （受付・入室 12：00～）
開催場所	中百舌鳥キャンパス A5棟 123 中講義室
プログラム <午前の部>	◆学域・学類説明（大塚 耕司） ◆シンポジウム①
プログラム <午後の部>	◆学域・学類説明（大塚 耕司） ◆シンポジウム②

* 定員に限りがあります（先着順）。

* 遅刻者は入室できません。

* 途中退室、立ち見についてはご遠慮下さい。

<シンポジウム①の内容> テーマ「環境」

担当教員	研究領域	テーマについて一言
司会 宮畑 一範	社会共生科学課程	わたしたちは、いろいろなものに取り囲まれて生きています。そのすべてが「環境」です。意識しているものもあれば、気づかないものもあるでしょう。各課程の先生方の三者三様の「環境」について、耳を傾けてください。新たな知が目覚めるはずです。
	認知意味論	
シンポジスト1 宮脇 幸生	環境共生科学課程	自然とは何でしょうか？その多くは、人の営みが作りだしてきたものです。多様な生物も、そのような自然環境の中で生きています。それを日本と私の調査地であるアフリカの例から見ていきたいと思ひます。
	文化人類学・比較社会学	
シンポジスト2 相田 洋明	社会共生科学課程	私たちは、日々重層的な文化環境のなかで暮らしています。私たちを取り巻くさまざまなレベルの文化を自覚的にとらえなおすことで、相互理解・共生の可能性が生まれるのではないかとすることを考えたいと思ひます。
	アメリカ文学、アメリカ文化	
シンポジスト3 高橋 幸治	人間環境科学課程	臨床心理学では、悩みや問題を抱えた来談者に対して行う、心理療法、カウンセリングが重要なテーマの一つです。そこでは、心が体験している世界、いわば“心の環境”が重視されます。心の環境に潜在する発展可能性についてお話しします。
	臨床心理学／無意識・イメージ・身体に着目した心理療法の研究／スクールカウンセリング	

* テーマについて、各課程からのシンポジストが話題提供をそれぞれ行い、その後討議を行う。

<シンポジウム②の内容> テーマ「持続可能性」

担当教員	研究領域	テーマについて一言
司会 遠藤 崇浩	環境共生科学課程	持続可能性という言葉は環境問題を考える上で一つのキーワードですが、それは同時に環境問題にとどまらない幅広い意味内容を持っている可能性があります。このシンポジウムでは語義の共通性・多様性を考えます。
	環境政策	
シンポジスト1 星 英之	環境共生科学課程	近年、シカ・イノシシ等の野生動物による農作物、森林、生態系及びヒトへの被害（いわゆる獣害）が増加しています。野生動物を獣害をおこす存在から自然の恵み（獣財）へと人々の意識を変えていくにはどうすれば良いか考えてみましょう。
	公衆衛生学	
シンポジスト2 青木 賜鶴子	社会共生科学課程	江戸時代以前の本は、手で写す写本と印刷した版本（はんぽん）でした。古い時代から現代、さらに次の時代への「持続可能性」の一つとして、本学図書館が所蔵する源氏物語関係の写本や版本などを紹介します。
	平安時代文学の受容史	
シンポジスト3 井手 亘	人間環境科学課程	人間社会全体と同じように会社や地域のグループなどの集団・組織も持続可能性の問題を抱えています。組織はこの問題にどのように対処しているのでしょうか、組織の中心であるリーダーの面から考えてみましょう。
	社会心理学・組織心理学 ／仕事における評価と満足、仕事の動機づけ	

* テーマについて、各課程からのシンポジストが話題提供をそれぞれ行い、その後討議を行う。

<個別相談>

開催日程	8月4日（土） 11：30～12：30
開催場所	中百舌鳥キャンパス A5棟 104講義室